《見方・捉え方〔35〕》　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　令和６年１月１6日

西と東の正しさ

◇　私の日常生活の中で，よく聞いている《中島みゆき》の歌の中に『旅人のうた』というのがあり，その歌詞の中に『西には西だけの正しさがあるという　東には東の正しさがあるという』というフレーズがあります。《中島みゆき》と同世代の私が大学時代に感銘を受けた『時代』以降の数多くの歌の中には，時代状況や人々の気持ち・心情などを見事な表現で歌い込んであるものが数多くあり，表現者としての在り方・見識を印象深く感じてきています。

◇　歌詞について詳しく承知していませんので，時代状況的に「東西冷戦構造」が意識されているのか，一般的に「ところ変われば・・」の意味で東西の語が使われているのか分かっていませんが，「正しさ」の語彙の捉え方の難しさ・奥深さは意識して用いられている感じはします。

◇　もとより，科学的な事実や関連する事実的なことを除くと，人の「知識・知恵・思考」などが重なり合った思惟活動，言語活動やその所産などに「絶対的な正しさ」は考えにくく，中でも価値観が介在するようなことには「正しさ」すら危ういものだと，常々思ってきました。年齢を重ねるに連れて，あまり強くは思わなくなりましたが，１０代の頃の私には，「清く　正しく　美しく」という校訓的な言葉（価値観）には《うさん臭さ》《偽善》以外を感じない時期もありました。

◇　「正しさ」と同じような語に「正義」の語があります。「正しい義」ということになりますので，「正しい道理，正しい意義，正しい趣意，正しい教義」などの意味合いになりますが，価値観を重ね合わせてある語ですので，捉えにくさの難度はあがるように思います。さらに加えて，現実社会で「正義」が取り沙汰されるのは，個々人の個人的な在り方・言動に関わる場面よりも，国家・軍事・外交・宗教・文化・経済などの「集団性・集団の力」が介在する場面において意図的に使われる印象が強く，さらには，「何か別のことを誤魔化すのに使用されている」印象さえあります。

◇　ここのところ，こうしたことに思いを巡らすことが増えたのは，ロシアによる一方的なウクライナ侵攻に加えて，イスラエルによるガザ侵攻が重なったことに起因しています。ウクライナでもガザ地区でも実に多くの一般市民が空爆などの直接的な軍事攻撃で亡くなったり傷ついたりしています。

　　＊　ロシアが主張する「ロシアの正義」とは，何か・・

　　＊　イスラエルが主張する「イスラエルの正義」とは，何か・・

◇　加えて，こうしたことの背景に世界全体の歴史とそれぞれの「集団性・集団の力」の歴史が強く関わっていることも考えておくべき要素だと思っています。地球全体規模で多くの地域的な集団が関連性を持ち始めたのは，世界史上の「大航海時代」と呼ばれる時期くらいからで，「近代ヨーロッパ」の形成期にあたり，ヨーロッパの諸国が地球全体に大きな影響を与え始めます。この時期くらいから，全体的に捉えると「北の正しさ」と「南の正しさ」の攻防が始まったと捉えることもできるように思います。

◇　こうした流れが顕著になったのが，近代的な主権国家を確立したヨーロッパの国々が，商業活動と軍事力を背景にして「植民地獲得競争」に走った時代であり，「北の正しさ」と「南の正しさ」とがお互いの「正しさ」として成り立つのではなく，「一方的な歪み構造」を持つ世界的な「国・集団の関係性」が形成されたように思っています。

◇　近代的なヨーロッパの国々がその覇権を世界の国々・地域に及ぼすようになる中で，ヨーロッパの国々が歴史的に形成してきた文化・文明・思想・制度などの「ヨーロッパ（西欧）的価値観」がそれ以外の国・集団・地域に押し付けられたり積極的に受容されたりしながらの優位性が確立されてきたように思っています。さらには，種々の理由・原因が重なっての「優位性」が，単なる「優位性」に留まらず，「唯一の正しい価値」や「絶対的な正しさ」であるかのような位置付けまでがなされてきたようにも思っています。

◇　さてこそ，現代の日本社会に生きる私たちにとって，人類全体で尊重されるべき価値・考え方をどのように考えておくかは，大事な視点だと思っています。日本国憲法の前文の「人類普遍の原理」として位置付けられているのが「国民主権・民主主義」であり，さらには「恒久平和の希求」「基本的人権の尊重」なども同じ文脈に位置付けられていると言えます。そうした骨格の中で，「西と東の正しさ」の相違，「北と南の正しさ」の相違，「ロシアとウクライナの正しさ」の相違，「イスラエルとパレスチナの正しさ」の相違を，日本社会で生活していて，どのように受けとめ，どのように考えるかは，受けとめ方や考え方は様々であっても，とても大事なことだと思っています。

◇　また，こうした「大きな価値観」「高い視点からの見方・捉え方」だけでなく，学校現場で日常的に焦点化する「価値観・捉え方のせめぎ合い」と言える「生徒の髪型指導」「セクハラ・パワハラ」などの事案を考えてみる時にも，「正しさの捉え方」の視点は，大事な要素であり判断の有効性も高いように思っています。